

# 深埋設接地工法

## ●深埋設接地工法概要

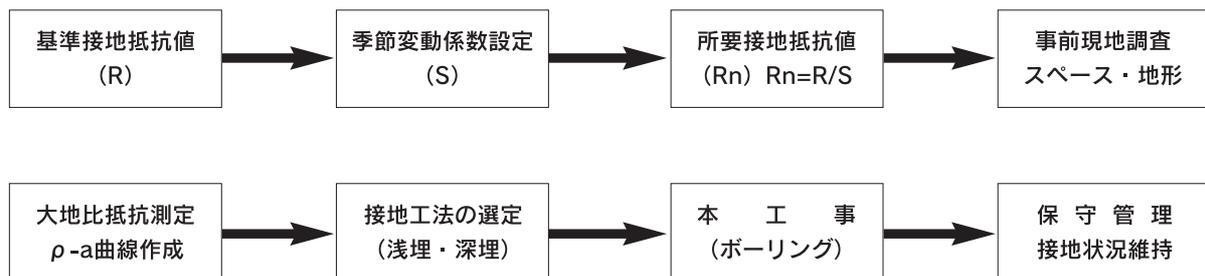
この工法は大地固有抵抗率が特に高い山地、砂地、礫層などにおいて玉石、砂礫、岩盤などの上に立地する被保護物を保護する避雷針及び電気設備の接地方法（従来の銅板、棒接地）工事では接地抵抗値取得が困難な場合又は打込みが出来ない場所に適用する。

深度5m前後の浅層部埋設から数100mにも及ぶ大深度埋設まであり、いずれも掘削された縦孔に接地電極を挿入し、間隙を接地抵抗低減剤で充填する工法です。

## ●特色

1. 今日都市化が進むにつれて、接地工事を施工する場所（面積）が減少する中、最小面積（ $66\phi\sim 100\phi$ ）のスペースに於いて確実に接地工事が可能となった。
2. 浅層部埋設工事（銅板、棒接地）にみられる季節的な抵抗値の変動がなく、又多極工事に於て起りえる多極合成の測定誤差がない。

## ●深埋設接地設計施工手順



## ●施工方法

- (a) ボーリング掘削機を使用し、地表面より垂直に掘削を行い約3.0m毎に疑似電極（掘削用ロッド $40.5\phi\times 3.0\text{m}$ ）を用いて抵抗値を測定し、取得抵抗値が確保できるまで掘削を行う。
- (b) 抵抗値が確保できたら掘削ロッドを引上げ電極及び充填材を圧入、この時に泥水ポンプにより充填材と泥水を完全に置き換える。
- (c) 充填材が安定したら最終抵抗測定を行い測定値を確認する。